

庚申山山行報告

【山行日】2021年9月26(日) 曇り時々小雨

【集 合】栃木市運動公園P AM 5:00

【費 用】マイカー3台 : 2,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、青柳、安西、
石澤、嶋田、関、廣瀬、福島、藤原、吉田

【コースタイム】栃木市運動公園P5:00＝銀山平P

6:15/6:30～一の鳥居 7:35/7:45～庚申山荘

9:05/9:40～庚申山 11:10～展望台 11:15/11:25～

庚申山荘 12:35/13:15～一の鳥居 14:20/14:30～

銀山平P15:20/15:30＝栃木市運動公園P17:05



今週も雨飾山に出かける予定だったが、緊急事態宣言下で県外への山行は自粛し庚申山へ変更した。11名参加者の為、3台の車に分乗し、東北道から日光宇都宮道路を通り日足トンネルを経由し銀山平へ向かう。銀山平キャンプ場に寄り、トイレを済ませて銀山平の登山者用駐車場に着く。



駐車場には数台車が止まっていたが、問題なく車を止められた。出発の準備を整え、ストレッチを行って出発する。駐車場から林道を左に進み、すぐ先の車止めゲートをくぐって林道を歩いて行く。

庚申川に沿って緩やかに林道を4Km歩くが、皆さんの会話が弾み賑やかでとても楽しそう。途中、抗夫の滝や天狗の投げ石などの見どころがあり、飽きることなく歩くことが出来る。1時間程歩くと庚申山登山口の標識がある一の鳥居に着く。ここで小休止し衣服調

整と水分補給を行う。一の鳥居をくぐって登山道に入り、沢沿いの爽やかな道を登るようになる。

沢の音を聞きながら明るい広葉樹林帯の道を登り、大きな岩の下にベンチが置かれた鏡石に着く。小休止してナシや菓子をいただき、エネルギーと水分を補給する。天気予報は曇りで雨マークは無かったが、小雨が降り出したがレインウェアを着るほどではない。大きな岩が重なった夫婦蛙岩や仁王門などを見ながら進み、岩がゴロゴロした急坂を登るようになる。やがて緩やかな笹原の登りになり、青銅の剣がある二の鳥居に出る。少し先に猿田彦神社跡があり、かつて庚申講の壮大な社殿があったところだ。ここでお山巡りコースを右に分け、直進して庚申山荘へ向かう道を登る。



少し雨脚が強くなったが、ほんの少し登ると庚申山荘に着いた。山荘の階段を登り、管理人の方に



お願いしてベランダの軒先を借りて休憩する。雨が止まないで庚申山頂は諦め、ここから下山する旨皆に伝え休憩する。20分ほどすると空が明るくなり、雨も止んだので余分な荷物を置いて山頂へ向かうことにした。庚申山荘を出て左に進み、崖の下を左に回り込むように登って行く。崖の間を縫うように登って行き、クサリ場や鉄のハシゴが連続するスリル満点のコースだ。奇岩怪石の独特の風景は見応えがあり、登るのが楽しいが雨で濡れているので慎重に登る。

途中、大胎内くぐりでお山巡りコースと合流し、我々は直進して庚申山山頂を目指す。ハシゴ場や岩場の急登が続くが、岩場を登り切って尾根に出るとコメツガの原生林になり緩やかな登りとなる。

平坦な登山道を進むと、やがて三角点が置かれた庚申山山頂に着く。コメツガの樹林の中で展望は全く無く、記念写真を撮ったら少し先の展望所に移動し休憩を取る。展望所からもガスで展望は得られず、皇海山や鋸岳十一峰は望むことが出来なかった。それでも山頂まで登れた達成感に溢れ、笑顔でご褒美のプリンを美味しく食べていた。

下山は往路を戻り、ハシゴ場やクサリ場を慎重に下って行く。予定よりも時間が掛かってしまったが、無事に庚申山荘に着きベランダでお湯を沸かして昼食をいただく。皆さん美味しくカップ麺やおにぎりをいただき、デザートにナシを食べたら下山開始する。山荘からも往路を戻り、途中シカの鳴き声に見上げるとシカが我々を見つめていた。近くに数頭のシカがいて、我々の動きを監視するように動いていた。



一の鳥居まで戻り、最後の休憩を取って林道を下って行く。長い林道歩きも楽しそうに会話が弾み、ゲートをくぐって駐車場に無事到着した。靴を履き替えたらずに車に乗り、銀山平キャンプ場に寄ってトイレを済ませて帰路につく。帰りは高速道を利用せず粕尾峠を越えて栃木市に向かい、交通費を節約して無事に栃木市運動公園に帰着した。